

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 公式ワナゲ普及促進事業 ( 福井市 )

### 基礎情報

|      |                      |
|------|----------------------|
| 実施地域 | 福井市                  |
| 実施主体 | 福井市老人クラブ連合会          |
| 所在地  | 福井市大手3丁目10-1（長寿福祉課内） |
| 代表者  | 会長 堀内英治              |



### 平成23年度の事業概要

誰でも簡単にできるニュースポーツである公式ワナゲを普及し、高齢者の健康増進を図り、地域での交流の場を設ける。

- ① ワナゲの配付  
地区老人クラブ連合会（36地区）に、ワナゲセットを計133セット配付。他に市老連の貸出し用として10セット購入。
- ② 習会、大会の実施（各地区単位）  
各地区で随時講習会や大会を実施。（要望があった地区には、市老連役員を派遣して指導。）
- ③ 会の実施（福井市）  
福井市体育館において、市内の単位クラブから参加者を集めて、講習会と大会を実施。

### 現在の活動状況

平成23年度は普及目的の講習会兼大会を開催したが、平成24年度には、各地区から参加者を募り、ワナゲ大会を正式な大会として執り行った。  
また、各地区での大会や講習会も継続して実施している。

### 事業の実績、成果

- ・ 運動量の多いスポーツに参加できない高齢者もスポーツ活動に参加できるようになり、高齢者の生きがいと健康づくり、および交流の促進に効果があった。
- ・ ワナゲの点数計算を会員自身が行うことで、脳が活性化され認知症の予防にもつながった。
- ・ 交流をとおして新規会員の獲得にもつながった。

### 工夫した点

- ・公式ワナゲはニュースポーツであり会員にあまり馴染みがなかったため、セットの配付だけでなく講習会を開いて、ルールを理解して自分たちでワナゲができるように配慮した。
- ・大会を開催することで、各クラブがワナゲへ関心を持ち活発に活動する機運を高めた。



### 事業の財源

平成23年度、地域支え合い事業補助金でワナゲセットを購入した。  
平成24年度以降、市老連の講習会や大会を開催する際の財源には、「福井市健康づくり事業補助金」を活用している。

### 課題

地区ごとで取り組みに差がある。  
どの地区でも活発に取り組んでもらえるよう働きかけが必要。

### 今後の目標

- ・引き続き、地区老人クラブ連合会や市老連が主体となって、講習会や大会を実施する。
- ・特に家に閉じこもりがちの会員に、高齢でも参加しやすいスポーツであることをアピールして参加を促し、高齢者の健康づくりの促進を図っていく。

### 団体からのメッセージ



ワナゲは簡単なゲームですが、やりだすと集中力もいるし、だんだん面白くなってきます。  
老人クラブでは健康づくり、仲間づくり、子どもとの交流会など広く活用し、大会では飛び賞を設けて和気あいあいとして楽しんでいます。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 地域支え合い体制づくり事業 ( 勝山市 )

### 基礎情報

|      |               |
|------|---------------|
| 実施地域 | 勝山市荒土町境区      |
| 実施主体 | 勝山市荒土町境区      |
| 所在地  | 勝山市荒土町細野108-5 |
| 代表者  | 区長 山内 博       |



### 平成23年度の事業概要

平成23年7月に境区自主防災組織を設立し、防災ばかりでなく地域全体の支え合い事業を始めた。

- ① 11月には待望の中型除雪機（10馬力）を購入し、12月に区民全員が使用出来るよう訓練を実施した（地域支え合い体制づくり事業）
- ② 各家にヘルメット一個を備え付けた（自主防災組織備品購入事業）
- ③ 区としてエンジンチェーンソーを購入した（自主防災組織備品購入事業）
- ④ ひとり暮らし高齢者世帯等に対し、除雪機による除排雪及び見守りを実施した

### 現在の活動状況

平成23年度は12月下旬より、平成24年度及び平成25年度は12月より高齢者宅、ひとり暮らし宅、空き家等の除雪、見回りを実施。

また、各班長は従来から存在する区の組織を利用し、広報を月2回ある配布時にポストへ入れるのではなく、一声かけて手渡しし、安否の確認を実施した。

4～11月は区民全員が自家野菜を栽培しているため、畑の管理時や栽培方法等話の中から区民全員の安否確認を実施している。

### 事業の実績、成果

除排雪に取り組むことで、自力での除雪が困難な高齢者世帯、障害者世帯、空き家等の区民の安心や安全の確保ができ、さらに、平時における見守り活動につながり、共助機能も向上し自主防災組織、支え合い事業ばかりでなく、区全体としてのまとまりが出てきて、鳥獣害対策、農地水事業、中山間地事業、集落センター修繕事業等にも取り組む事ができ、大切な地域の絆づくりが進んだ。

### 工夫した点

地区は豪雪地帯であり、過疎地域でもあるため、昔有った絆を復活するにはと思っていたところ、自主防災組織備品購入事業や地域支え合い体制づくり事業を知り、ヘルメットの購入、除雪機の購入により、作業の安全、地区の絆体制づくりに結びついた。



### 事業の財源

- ・ 自主防災組織備品購入事業  
→ 20万円
- ・ 地域支え合い事業（県補助金）  
→ 75万円

### 課題

境地区は豪雪地帯であり、一晩で40～50cmの降雪があり、二日も続けば70～80cmになるため中型除雪機では小さ過ぎた、大型除雪機（18馬力以上）が必要である。

### 今後の目標

地区の見回りや自力での除雪が困難な高齢者世帯、障害者世帯、空き家等の区民の安心や安全の確保はもちろんの事、防災（特に雪害）対策に対し、コミュニティ助成事業等を利用し地域の防災機器の整備を実施したい。



### 団体からのメッセージ

除排雪等、雪の心配がないよう、みんなで力をあわせて、年をとっても安心して住み続けられるような集落を目指したい。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 地域支え合い体制づくり事業 ( 勝山市 )

### 基礎情報

|      |                  |
|------|------------------|
| 実施地域 | 勝山市野向町薬師神谷区      |
| 実施主体 | 勝山市野向町薬師神谷区      |
| 所在地  | 勝山市野向町薬師神谷 38－19 |
| 代表者  | 区長 石塚 善榮         |



### 平成23年度の事業概要

高齢者やひとり暮らし高齢者世帯が多くなる傾向にある当区において、勝山市が指導する自主防災組織の確立と、これによる「日常からの助け合いと防災への体制づくりと対応」を整備する。

そして、お互いに支え合う区のコミュニティづくりを目指した。

- ① 区役員、自衛消防、民生委員児童委員による自主防災組織の設立
- ② 小型除雪機購入による要援護者世帯や消防ポンプ庫や集落センターの除排雪
- ③ 集落内の危険個所の点検と関係機関への要望
- ④ 集落内の消火栓設備の点検
- ⑤ 除雪機等における要援護者世帯の見守り

### 現在の活動状況

平成24年度及び平成25年度は、例年に比べ降雪・積雪も大変少なく、除雪機による要援護者世帯の除排雪の機会がほとんどなく、声掛け等による見守り活動が主となっている。その他においては、前年度とほぼ同様の活動を実施している。

- ① 集落内の危険個所の点検と関係機関への要望
- ② 集落内の消火栓設備の点検
- ③ 要援護者世帯の見守り
- ④ 区会議時における防災・見守りに関する勉強会（住民の意識向上）

### 事業の実績、成果

災害時要援護者の登録制度と自主防災組織の設立、地域支え合い体制づくりにより、集落内においては以下のような成果があった。

- ① 自らの危険防止について「救急医療情報キッド」や「火災警報器」を率先して設置する意識ができた。
- ② 除雪機による要援護者世帯の除排雪や消火栓管理に対する意識が向上した。
- ③ 集会等で危険個所の指摘や、改善要望についての積極的な発言が目立つようになった。

### 工夫した点

- ① 要援護者にもかかわらず、登録を躊躇するものに対して「登録」を働きかけた。
- ② 除雪機の使用に当たって「利用規程」を設けて、適正な管理をすることとした。



### 事業の財源

平成23年度は、地域支え合い体制づくり事業補助金を活用した。(県補助金)  
平成24年度及び平成25年度は、勝山市自主防災組織活動事業補助金(市単独)及び薬師神谷区一般会計を活用した。

### 課題

高齢者や独居高齢者が増加する傾向にあり、援護できる体制を維持すること。

### 今後の目標

集落内の住民同士で支え合う意識をより向上させて、安心して暮らせる集落を維持していく。



### 団体からのメッセージ

集落内の住民全員が地域で支え合う意識をもって、安心して暮らせる集落を維持していくことを目指しがんばります。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 配食サービス体制強化事業 ( あわら市 )

### 基礎情報

実施地域 あわら市全域  
実施主体 社会福祉法人 あわら市社会福祉協議会  
所在地 福井県あわら市市姫二丁目31-6  
代表者 会長 関 法子



### 平成25年度の事業概要

在宅生活の継続に必要な食事を提供するために、365日休まず配食サービス（昼食のみ）を平成23年9月から開始した。  
また、安否確認及び栄養改善も実施目的となっている。

- ・配食専門の職員を新規に採用した。
- ・広報誌・ホームページ上でPR活動を行った。

### 現在の活動状況

配達は、職員が直接顔を見て手渡しすることにより、利用者の安否確認を行い、健康チェックや会話をすることにより、利用者とのコミュニケーションを図っている。

また、その際、体調不良を確認した場合は、担当のケアマネジャーと速やかに連携を取り、対処している。

あわら市内に居住している方で、おおむね65才以上の高齢者単身世帯または高齢者のみの世帯の方を対象としている。

調理は外部業者に委託している。

### 事業の実績、成果

|                    |                |
|--------------------|----------------|
| ・平成24年 4月～ 9月利用実績  | 3,688食(615食/月) |
| ・平成24年10月～翌年3月利用実績 | 1,846食(615食/月) |
| ・平成25年 4月～ 9月利用実績  | 3,228食(538食/月) |
| ・平成25年10月～翌年2月利用実績 | 2,433食(487食/月) |

※利用者栄養管理面でのサポートができた。

※日々顔を合わせることで、利用者との信頼関係が構築され、配食時間を心待ちにしている方も増えていた。

### 工夫した点

お弁当のできあがりから利用者に手渡すまでの時間を考慮し、配食スタッフの人数や配食ルートなどの効率化に重点を置いている。



### 事業の財源

- ・平成 24 年度は、人件費やガソリン代及び車両管理費は、当施設の他事業から補填している。
- ・平成 25 年度も、24 年度と同様である。

### 課題

- ・利用者の中には認知症の方も多く、配達時に不在であることも多く、安否確認に要する時間が多くなっている。
- ・認知症利用者の方で、弁当の食べ残しをそのまま放置していることがある。
- ・コストをかけずに、広範囲の利用者へ時間内に食事を配達するための工夫
- ・食事の品質を落とさずに、コストを抑える工夫。

### 今後の目標

- ・単身世帯の高齢者及び障がい者の増大により、担当ケアマネジャー、家族及び近隣の方との連携を密に図り、安否確認の徹底を図る。
- ・今後、配食件数の増加も考えられるため、配達を行う人材を確保していく。
- ・介護保険認定者以外の方も対象としていく。

### 団体からのメッセージ

栄養バランスのとれたメニューをご用意しています。  
「きざみ食」での提供も可能です。  
お気軽にご相談ください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 高齢者・障害者の移動支援事業 ( あわら市 )

### 基礎情報

|      |                    |
|------|--------------------|
| 実施地域 | あわら市・坂井市           |
| 実施主体 | 社会福祉法人 あわら市社会福祉協議会 |
| 所在地  | 福井県あわら市市姫二丁目3 1－6  |
| 代表者  | 会長 関 法子            |



### 平成25年度の事業概要

在宅での生活を希望する高齢者等の外出する際の不便さの解消、また、外出する機会を増やすことで地域住民との繋がりの強化など、在宅生活者の支援充実と不安解消を図るため、平成23年11月から移動支援事業を開始した。

### 現在の活動状況

あわら市内及び坂井市内に居住している方で、低所得者及び生活困窮者であって、公共交通機関を単独で利用することが困難であり、他から移送支援を得ることが困難な方、または要介護認定及び要支援認定を受けている方、ならびに障がい者の方を対象に医療機関への通院等の支援を行っている。

利用会員は、ケアマネジャー及び利用者からの紹介により問い合わせが増えている。また、利用者増加に伴い対応できない場合は、介護タクシーや福祉有償運送事業者等地域の関係事業所と連携しサービス提供している。

### 事業の実績、成果

|                    |            |
|--------------------|------------|
| ・平成24年 4月～ 9月利用実績  | 述べ件数 217 件 |
| ・平成24年10月～翌年3月利用実績 | 述べ件数 145 件 |
| ・平成25年 4月～ 9月利用実績  | 述べ件数 327 件 |
| ・平成25年10月～翌年2月利用実績 | 述べ件数 218 件 |

※病院通院のみならず、他の目的にも利用していただけた。

※外出機会が増えることにより、地域住民との繋がりを強化することができた。

### 工夫した点

予約日の事前確認、また、運転手間で利用者の希望等の情報共有を行い、安心して喜ばれる移送を実施している。

利用者が安心して利用できるように、随時交通安全に対する意識付けや、安全な車椅子の移動手段等について、職員間で勉強会を実施している。

### 事業の財源

福祉有償運送の売上金では、まかないきれない分は、金津雲雀ヶ丘寮の他事業から補填している。

### 課題

- ・ 事前予約制であるが、当日に利用申し込みがある。
- ・ 移送件数は増加傾向であるが、採算性が見込めない。
- ・ 病院内の付き添いを必要とする人も多く、介護経験者が運転手として必要である。
- ・ 経済面から、運転手を常時配置しておくことができない。また、利用者の利用日が重複するなど、運転手の確保が必要である。

### 今後の目標

- ・ 障がい者の方も自由に外出できる地域社会を作るために、既存の介護タクシー事業所や行政（デマンド交通）との連携を図る。
- ・ 現在、移送の主な利用目的は、通院であるが、高齢者及び障がい者の方の閉じこもり防止や自立した生活の維持を目指すため、買い物などへの支援も積極的に取り組む。

### 団体からのメッセージ

柔軟に対応できる移送サービスを目指します。

また、利用者には活動範囲を広げていただき、地域社会との交流に活用していただきたいと思います。

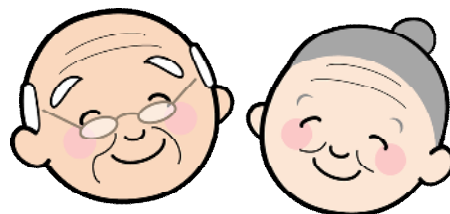
行き先が近距離でも対応できますので。お気軽にお問い合わせください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## ふれあい生活支援サービス事業 ( あわら市 )

### 基礎情報

実施地域 あわら市全域  
実施主体 社会福祉法人 あわら市社会福祉協議会  
所在地 福井県あわら市市姫二丁目3 1－6  
代表者 会長 関 法子



### 平成25年度の事業概要

家事援助及び社会参加への支援、医療機関への付き添い等を実施する事業と介護保険制度との違いを理解してもらうため、介護支援専門員や訪問介護者に対し支援内容の詳細説明を行っている。

また、広報誌・ホームページ上でPR活動を行った。

### 現在の活動状況

生活支援として、買い物、病院、金融機関等への外出時の付き添い、居室掃除等を実施している。

原則としてあわら市内にお住まいの方で、おおむね65歳以上の高齢者単身世帯または高齢者のみの世帯および障害者等の単身世帯の方が対象で、あらかじめ会員登録をして利用していただいている。

また、引き続き、介護保険制度との違いを理解してもらうため、介護支援専門員や訪問介護者に対し支援内容の詳細説明や、広報を行っている。

### 事業の実績、成果

- |                    |    |
|--------------------|----|
| ・平成24年 4月～ 9月利用実績  | 6件 |
| ・平成24年10月～翌年3月利用実績 | 6件 |
| ・平成25年 4月～ 9月利用実績  | 8件 |
| ・平成25年10月～翌年2月利用実績 | 4件 |

※医療機関への付き添い支援を利用されている方から大変好評で、長期にわたり利用していただいている。

### 工夫した点

関係部署へのPR活動を継続的に行い、当事業内容の周知徹底に努めている。  
訪問介護では、日数制限がある利用者に対し、当事業を利用していただき、支援を広げている。

### 事業の財源

事業としての利益では、経営として成り立たないため、金津雲雀ヶ丘寮の他事業から赤字額を補填している。

### 課題

このサービスについて、居宅介護支援事業所及び関係機関(民生委員、市包括視線センター)に十分に周知できていない。

### 今後の目標

- ・ 今後、必要とされるサービス内容を見極める。また、この事業は拡大すると思われるため、担い手の確保に努める。
- ・ 医療機関等への付き添い支援や、在宅での生活支援等を強化し、また、利用者に対しては介護保険制度の違いを十分説明し、理解を得たうえで利用者獲得に努める。



### 団体からのメッセージ

どんな支援ができるか、私たちも手さぐりの状態です。  
お気軽にご相談ください。  
ちょっとした支援で、快適な在宅生活の支援をさせていただきたいと思っています。

問合せ先： あわら市金津雲雀ヶ丘寮

(TEL : 0776-73-0144 FAX : 0776-73-1343 )

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 買物困難者のための支援事業

( 越前市 )

### 基礎情報

実施地域 越前市坂口地区、東地区、南地区、西地区  
広瀬地区、国高地区、北新庄地区  
実施主体 NPO法人 土といのちの会  
所在地 越前市京町1-4-33  
代表者 理事長 笠原 章



### 平成23年度の事業概要

住宅街から食料品店が閉店し、高齢者や障害者の日常の買物に不便をきたしている地区で移動販売を行うための体制を整備

#### ①移動販売車の購入

保冷・保温機能、スピーカーを備えた軽自動車を購入

#### ②販売先、販売頻度の決定

坂口地区自治振興会と協議を重ねて決定。

高齢者施設から移動販売の依頼があり、それを契機に独自に高齢者施設に働きかけ数か所で実施。

その他、口コミで個人宅への移動販売の実施。

#### ③広報活動の実施

土といのちの会の機関紙やチラシを作成しPR。

### 現在の活動状況

平成24月1月から移動販売を本格稼動

・訪問地区・・・坂口地区、東地区、西地区、南地区、神山地区、国高、北新庄地区

・訪問頻度・・・各地区、週1回ずつ

・販売物品・・・地場有機栽培野菜・加工品・花・無添加調味料・環境商品

\*当初は老人会や自治振興会にチラシを配り事業の周知を図った。現在は移動販売の周辺にチラシ配布。

### 事業の実績、成果

- ・毎週火曜日：西地区（越前いきいき健康館）東地区（サンライフ小野谷）国高地区（ニチイ）神山地区（ケアフルハウス、個人宅7件）
- ・毎週木曜日：大虫地区（大虫公民館）東地区（福鉄労働会館前・北府・藤の社）、西地区（野尻医院個人宅8件）
- ・毎週金曜日：坂口地区（中津原町、下中津原町、湯谷町、下別所町、勾当原町）、個人宅6件

\*当初の計画になかった高齢者施設からの依頼が相次いでいる。

\*情報が少ないが、口コミで広がりを見せている。

### 工夫した点

利用者の注文や要望を聞き、次回移動販売の折に対応するようにしている。  
移動販売先の近所へ“風ものがたり・移動販売”のチラシを配布し、呼びかけをしている。



### 事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で、移動販売車を購入。  
運営にかかる経費は、売上げ代金だけでは、ガソリン代や人件費をまかないきれないので、法人の財源の一部を事業に充てている。

### 課題

少しずつ利用者が増えてきているが、まだまだ実績が少ない。  
個人情報ということで、市ははじめ多くの地域から、必要としている地域（個人）の情報が得られない現状の中、個人のネットワークで対応している。

### 今後の目標

- ・新年度になったら、市役所から高齢者等の情報が出るので販路の拡大を検討する。
- ・顧客ニーズをもっと把握し、売り上げを伸ばす。
- ・口コミで伝えてもらえるよう商品の説明に力を入れる。
- ・高齢者福祉施設等への移動販売を継続、拡大する。



### 団体からのメッセージ

地域の農・食・環境を生産者と消費者が一緒に考える会の発信の一つとして、店に来られない方にも安全安心な食を提供したいと考えている。  
普段の買い物に不自由をしている方々の暮らしを応援したい。

### 【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 買物困難者のための支援事業 ( 越前市 )

#### 基礎情報

実施地域 越前市北日野地区、北新庄地区、今立地区  
実施主体 社会福祉法人 北日野こもれび会  
障害福祉サービス事業所 ぴーぶるファン  
所在地 越前市帆山町5-31-1  
代表者 理事長 長谷川 仙一郎



#### 平成23年度の事業概要

住宅街から食料品店や雑貨店が撤退し、高齢者や障害者の日常の買物に不便をきたしている地区で移動販売を行うための体制を整備

##### ①移動販売車の購入

保冷・保温機能、スピーカーを備えた自動車を購入

##### ②販売先、販売頻度の決定

地元自治会、老人会等と協議を重ねて決定

##### ③広報活動の実施

チラシを作成し高齢者等宅へ配布、市報でのPR

地元自治会の方に地区の方への周知をお願いする

#### 現在の活動状況

平成24月1月から移動販売を本格稼働

訪問地区・・・北日野地区（畑町・矢船町・矢放町・大屋町・平林町）、今立地区（野岡町・銭ヶ花町・横住町）、北新庄地区（中新庄町）、しきぶ温泉湯楽里

訪問頻度・・・各地区、週1回ずつ

販売物品・・・お弁当、お惣菜、衣料品

お弁当、お惣菜は、当法人の障害福祉サービス事業所で作成

老人会や区長会にチラシを配り、事業の周知を図っている。

事業所で働く障害者を販売スタッフとして連れて行き、地域の高齢者との交流の機会をつくっている。

#### 事業の実績、成果

平成24年度利用実績（1～6月）・・・延べ約800人

買物への移動手段に困っていた人たちへの支援ができ、大変喜ばれた。

また、障害者の就労支援、工賃アップにつながった。

公共施設でも販売させてもらうことにより、地域の方たちに障害福祉サービス事業所の意義を理解してもらえ、周知に繋がり、事業所で働く障害者と地域の人たちのコミュニケーションを図ることができた。

また、その他で販売している菊人形等の事業にも、お客様としてきてもらえた。

### 工夫した点

利用者の要望を聞き、趣味や嗜好にできるだけ対応するようにしている。  
販売する場所での会場設営を行った後、徒歩で近所に呼び込みをかける。  
のぼり旗の作成や、車に設置したスピーカーで音楽をかけたり、マイクで呼びかけたりして、移動販売が来たことを周知させる。



### 事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で、移動販売車を整備。  
運営にかかる経費は、法人が負担。  
また、継続する事により、地域の方たちにも周知してもらえ、繋がりも深まり、障害者の工賃アップにも繋がった。

### 課題

少しずつ利用者が増えてきているが、まだまだ実績が少ない。  
移動販売場所まで来ることができない人に対する支援。  
賞味期限が当日のものがほとんどであるため、夏季のお弁当や惣菜の販売方法。

### 今後の目標

現在の3地区以外からも移動販売の要望を聞いているので、販路の拡大を検討する。  
顧客ニーズをもっと把握し、売り上げを伸ばす。  
飲食スペースや休憩スペースを設け、移動販売の場が地域交流の場となるよう、工夫したい。  
かさばる荷物や重いものなど、注文の品も持参できるとよい。  
真空パックなど冷凍の常備できる食品も揃えたい。

### 団体からのメッセージ



地域の人たちには、買い物だけでなく、おしゃべりをしに気軽に足を運んでほしいと思っています。  
移動販売を定着させるためのアイデアを、随時募集中です。  
みんなで力をあわせて、年齢を重ねても安心して住み続けられるようなまちを目指しましょう。

問合せ先：社会福祉法人 北日野こもれび会 障害福祉サービス事業所 ピーぷるファン  
(TEL : 0778-23-1439 FAX : 0778-23-1410)

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 高齢者いきいき推進事業

( 越前市 )

### 基礎情報

実施地域 越前市  
実施主体 越前市いきいきシニアクラブ連合会  
所在地 越前市府中1丁目11-2  
代表者 会長 坂野良治



### 平成23年度の事業概要

閉じこもりがちな高齢者を若手高齢者が連れ出し、ニュースポーツを通じて、閉じこもり防止や健康づくり、地域支え合い体制づくりを推進

#### (1) ニュースポーツ用品等の購入

平成24年2月にニュースポーツ用品を購入各地区に配布

- ① 囲碁ボール 9セット（内4セットはリース分を買取）
- ② 輪投げ 10セット
- ③ スティックリング 17セット

#### (2) 講習会等

ニュースポーツのルール説明などの研修会ニュースポーツ講習会の開催

- ① 東地区 24年3月12日
- ② 越前市全体 24年2月14日
- ③ 服間地区 24年3月2日
- ④ 越前市全体 24年4月27日

### 現在の活動状況

地域支え合い体制づくり事業補助金で購入した囲碁ボール、輪投げ、スティックリングは、室内でも、高齢のため運動が苦手な人も、誰でもが気軽に楽しく取り組めるニュースポーツで、現在、高齢者が高齢者に声をかけあい、閉じこもり防止のために、各地区、各单位クラブ、いきいきふれあいサロンにて、ニュースポーツを楽しんでいる。

### 事業の実績、成果

平成24年度は、高齢者 延401回 7,111人が、身近な会場へ出かけて、囲碁ボール他、ニュースポーツを楽しんでいる。

### 工夫した点

- ・できるだけ、多くの人に利用してもらえるように、つどいでも、利用するように勧めている。
- ・世代間交流で子どもたちとの交流もはかった。



### 事業の財源

- ・平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金によりニュースポーツ用品を購入。
- ・各地区等でのニュースポーツ講習会や大会については、当団体の各地区で負担。

### 課題

- ・若手会員の加入を促進して、若手が高齢会員を支える体制づくりをする。
- ・世代間交流を推進する。

### 今後の目標

- ・利用実績の少ない地区の回数の拡大
- ・出前講習会の開催をする。



### 団体からのメッセージ

高齢者が高齢者を支えることで、生きがいとなり、社会参加、健康づくり、閉じこもり防止となっています。  
高齢者が、住み慣れた地域で、いきいきと交流する地域社会をめざしましょう。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 配食サービス支援事業車輛整備事業 ( 永平寺町 )

### 基礎情報

実施地域 永平寺町全域  
実施主体 永平寺町社会福祉協議会  
所在地 永平寺町27-27  
代表者 会長 永善 信行



### 平成23年度の事業概要

配食サービスでの配達車輛の確保。

配食弁当を民生委員やボランティアが配達する際、広域範囲のため配達専用車での配達を実施。

配食サービス用車輛（軽自動車）購入補助（H24年3月）

車輛を活用した配食サービスの実施（H24年3月～）

### 現在の活動状況

旧町村単位で、昼食の配食サービスを週1回から3回実施して、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯での安否確認を実施している。

仕出し業者は配達をしなく、いままでは民生委員やボランティアが自車で広域範囲を配達している。

### 事業の実績、成果

配食サービス用車輛を購入し、高齢者宅に弁当を安定的に配布できた。

H24年度利用状況

- ・松岡地区 利用者36名 月平均110食 配達
- ・永平寺地区 18名 月平均 90食 配達
- ・上志比地区 13名 週3回利用 月平均150食 配達

### 工夫した点

車輛を運転する際、民生委員、ボランティアへの交通安全マニュアルを徹底。  
誰もがわかりやすい運転日報の作成。



### 事業の財源

平成23年度 地域支え合い体制づくり事業補助金で車輛を購入。  
配食サービス運営は永平寺町社会福祉協議会が運営。

### 課題

配食サービス希望者が年々増加しているが、配達車輛が少ないため、決まった時間に配達できない。

### 今後の目標

配食事業を継続し、町の財源により車輛台数の増加を図る。  
車輛に係る維持経費については、町からの社協補助金に組み入れていく。

### 団体からのメッセージ

ボランティアさんや民生委員、福祉委員が定期的に訪問し、住民の皆さんが安心して安全に暮らしていけるよう支援させていただきます。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 冬季日常生活支援車両整備事業 ( 永平寺町 )

### 基礎情報

|      |             |
|------|-------------|
| 実施地域 | 永平寺町全域      |
| 実施主体 | 永平寺町社会福祉協議会 |
| 所在地  | 永平寺町27-27   |
| 代表者  | 会長 永善 信行    |



### 平成23年度の事業概要

冬季において、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の住民が、自宅前から生活道路までの除雪を行えず困っている。

隣近所の住民同士でのたすけあいで除雪活動といっても、日中、高齢者が多く除雪といっても困難であった。

また当時は町の除雪に関しての補助制度はなかった。

高齢者が冬季間に自宅に閉じこもることのないよう、ボランティアによる除雪支援体制を構築する必要性があった。

そこで、平成23年度に自治会申請により、除雪機の貸出を行い、区長をはじめとする、地域住民による除雪活動を行った。

### 現在の活動状況

社協で、除雪機を3台購入し、地域住民への貸出を行った。

個人に貸出ではなく、自治会申請での貸出を行う。

隣近所が助け合い、一人暮らし高齢者宅の除雪作業をおこなった。

また、区長、民生委員児童委員、福祉委員なども連携しながら区内除雪支援活動に参加しながら、見守り活動も同時に行っている。

### 事業の実績、成果

除雪車の貸出開始（H23年12月）実績5回

### 工夫した点

広報誌・HPでの情報発信をおこなう。

### 事業の財源

諸経費等については町からの補助金  
H23年度の地域支え合い補助金で除雪機を購入。  
運営については永平寺町社会福祉協議会

### 課題

除雪機の貸出は、地区に1台しかないため、降雪時、また土日曜日に貸出日が集中してしまう。

### 今後の目標

福祉委員等での中型除雪車両による、各地区除雪ボランティア事業を継続し、冬季間の高齢者生活を援助していく。  
車両に係る維持経費については、町からの社協活動補助金に組み入れていく。

### 団体からのメッセージ

自治会申請いただき、隣近所、住民同士での助け合いにご活用ください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 車イス利用者移送貸出車輛整備事業

（ 永平寺町 ）

### 基礎情報

|      |             |
|------|-------------|
| 実施地域 | 永平寺町全域      |
| 実施主体 | 永平寺町社会福祉協議会 |
| 所在地  | 永平寺町27-27   |
| 代表者  | 会長 永善 信行    |



### 平成23年度の事業概要

車イス利用者の高齢者に対しては、医療機関や、公共施設への移動には民間車輛による外出支援サービスを実施しているが、車イス積載車輛を保持している一般家庭は少なく、車イス利用者の方に日常生活において買い物等などの移動を支援するために、社協で車イス利用者貸出車輛購入を行った。

### 現在の活動状況

H24年度は27件の貸出があり住民の方々にも大変好評をいただいております。  
町の外出支援だけでは外出が限られた範囲での生活であったが、車輛貸出により、公的機関、医療機関だけでなく、社会参加（余暇活動、各イベント参加、旅行など）に繋がり、日常生活支援体制を支援できた。

### 事業の実績、成果

利用者への貸出開始（H23年10月～）実績6件（H23年3月）  
H24・4～H25・3 実績27件

### 工夫した点

広報誌・HPでの情報発信をおこなう。  
また、実際に利用した方への感想を広報誌に記載する。



### 事業の財源

H23年地域支え合い体制づくり事業補助金で車両購入、その他にかかる諸経費等については町からの補助金。

### 課題

広報等でのPRを行っているが、町民への情報が一部にしか広がっていない。

### 今後の目標

車イス利用者移送貸出車両による事業を継続し、利用申込み状況により社協での同車両の拡大を図る。  
車両に係る維持経費については、町からの社協活動補助金に組み入れていく



### 団体からのメッセージ

車イスの方の社会参加にご活用ください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 地域介護力・支え合いの力アップのための家庭介護教室 ( 池田町 )

### 基礎情報

実施地域 池田町  
実施主体 池田町  
所在地 今立郡池田町藪田5－3－1  
代表者 町長 杉本博文



### 平成23年度の事業概要

家庭介護講習（ヘルパー2級養成講座）開催場所を受講しやすくするため、池田町において実施

- ・受講者 20名
- ・資格取得者 19名

### 現在の活動状況

町が現在検討中の生活総合福祉支援事業の中において、地域の生活支援が必要な人等の情報提供や、ニーズ調査の調整役等をお願いしている。

今後企画の中で、支援活動に協力願う予定。

### 事業の実績、成果

- ・ヘルパー2級の資格取得者を養成することができた
- ・専門的知識を学び、高齢者福祉について意識を高めることができた
- ・長期間の講座で受講生になかま意識ができ、意欲向上につながった

### 工夫した点

開催場所を池田町とし、受講しやすいようにした講習を効率的に行うため、業務委託して実施した



### 事業の財源

平成23年度は、地域支え合い体制づくり事業補助金を活用

### 課題

受講者でチームを組織することはできていない。

### 今後の目標

総合生活福祉支援事業のしくみ構築をめざし、協力人材として積極的にかかわりを持っていく

### 団体からのメッセージ

池田町は、過疎・高齢化という重い現実が日常生活に必要な機能を不足させています。これらを補うしくみが構築できるよう一人でも多くの方のご理解ご協力をお願いします。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 食のハートキッチン便実験事業 配達部門強化事業 ( 池田町 )

### 基礎情報

実施地域 池田町  
実施主体 池田町  
所在地 今立郡池田町藪田5－3－1  
代表者 町長 杉本博文



### 平成23年度の事業概要

生活支援及び弁当配達のための車輛整備

生活に支障のある高齢者等を対象に栄養改善と見守り強化を目指し弁当の配達部門を強化するため、ボランティアによる配達チームを立ち上げ車輛を購入した。

- ・実利用者 24人
- ・延べ配食数 935食
- ・生活支援ニーズ調査の実施

### 現在の活動状況

- ・実験事業は、行政主導により行ったため様々な問題点が明らかとなり、行政としては事業を一旦休止した。しかし、実行委員会において参加した民間事業者において、食事の配達を基本とした支援策を検討したいとの申出と提案を受けたので、現在の利用者のフォローと伴に支援策を模索している。
- ・町と連携し、生活支援のしくみ構築企画会議等を実施。民間事業者の財源において、事業の実施を検討している。

### 事業の実績、成果

高齢者等の栄養改善と、見守り強化につながった。配達員も町民からの募集により行ったことで福祉意識の向上につながった。

単に弁当の配達だけでなく、配達員との顔みしりの関係ができたことで心の安心につながり、聞き取り調査によると個々に様々な潜在的な生活支援のニーズがあることがわかった。

### 工夫した点

- ・ ボランティア（有償）による配達体制
- ・ 配達員と利用者とのコミュニケーション
- ・ 生活支援ニーズ調査の実施



### 事業の財源

平成23年度地域支え合い事業補助金で車両を購入。  
現在のフォローは民間事業者において負担。  
平成24年度安心生活創造事業において、池田町にあった買い物支援策の実施体制を検討中。

### 課題

- ・ 事前の調査においても、事業で行った生活支援ニーズ調査においても潜在的なニーズはあるものの、おのおのが家族や地域の支援策を持っているためか、お金をだしてまで頼むほどではないという住民性からか、利用者が少なくしくみとしてまわらない。
- ・ 継続性のある取組みとしていくための財源、人材、民間活力など
- ・ 人口の少ない町での取組みとして課題は山積している

### 今後の目標

事業実施を踏まえ、池田町総合生活福祉支援事業として取組みを行っていく。  
地域性、住民のニーズ、住民が漠然と持っている潜在的な不安等に対して支援していく体制を構築していく。

### 団体からのメッセージ

年をとっても「池田町に住み続けることができる町」を目指した仕組みづくりに、一人でも多くの方の協力をお願いします。

【3-1】日常生活支え合い実践事業

## 配食ボランティア活動車両整備事業 (南越前町)

### 基礎情報

|      |                    |
|------|--------------------|
| 実施地域 | 南越前町全域（今庄地域中心）     |
| 実施主体 | 社会福祉法人 南越前町社会福祉協議会 |
| 所在地  | 南越前町脇本第17号38番地の1   |
| 代表者  | 会長 斎藤市左衛門          |



### 平成23年度の事業概要

- ・今庄地域の一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等のための配食用車両1台を購入整備した。（平成23年10月）。
- ・配食用車両運転（配達）ボランティアを募集した。
- ・ボランティアによる配食サービスを実施する予定だったが、対象者が入所するなどして、当年度中の配食開始はできなかった。

### 現在の活動状況

- ・配食用車両整備により、配食用車両運転（配達）ボランティアの確保を進め、配食サービスを実施している。
- ・配食を通じて高齢者の安否確認や友愛訪問を行っている。
- ・対象：今庄地域の一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯
- ・頻度：4～9回／月
- ・料金：配達代 無料、弁当代 本人負担

### 事業の実績、成果

- ・配食を通じて高齢者の安否確認や友愛訪問を行うことにより、高齢者の状況把握に役立っている。
- ・高齢者の中には、栄養が偏った食事をしている人も多く、バランスの取れた弁当の配達サービスを受けることにより、少しずつではあるが栄養改善が図られている。

### 工夫した点

- ・配食サービスを受けることに積極的でない高齢者に、配食用車両運転（配達）ボランティアから利用を勧めてもらっている。



### 事業の財源

- ・平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金
- ・燃料費等は社協自主財源。

### 課題

- ・河野地域・南条地域でのニーズ把握が進んでいない。

### 今後の目標

今庄地域を中心に、河野地域・南条地域でも、配食用車両運転（配達）ボランティアを募り、ニーズ把握を進め、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等の在宅生活を支援する。

### 社協からのメッセージ

一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等を地域全体で見守っていく必要があると思います。社協は、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等の在宅生活を支援していきたいと考えています。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 日常生活交流を通じた支援のしくみづくり のための高齢者等の移動手段の確保 ( 美浜町 )

### 基礎情報

|      |               |
|------|---------------|
| 実施地域 | 美浜町全域         |
| 実施主体 | 美浜町社会福祉協議会    |
| 所在地  | 三方郡美浜町郷市25-20 |
| 代表者  | 会長 中村 博昭      |



### 平成23年度の事業概要

外出機会の交流をきっかけに、日常生活をととしての自然な支え合い意識がうまれることで「見守る」「見守られる」といった関係ではなく、時には支え、時には支えられるという地域社会で生活していくうえでの人と人との関係づくりを再構築するための体制整備を行う。

- ・車両の選定  
高齢者や障害者でも乗りやすいスペースの広いもの。  
スライド式で乗り降りに負担がないもの。  
降雪時のことを考え、4WDであること。  
普通免許で運転できる最大乗車人数である10人乗りの車両
- ・車両の購入  
条件を満たした10人乗りグランドキャビンを購入
- ・広報・周知  
民生委員、福祉委員等を中心に周知

### 現在の活動状況

平成24年2月から使用開始。ふれあいサロン（お出かけサロン）に使われるほか、身体障害者福祉協会のイベントの送迎、一人暮らし高齢者のふれあい会食会の送迎などに使われている。普通免許で運転でき、10人乗りの車両のため送迎等に役立っている。

### 事業の実績、成果

- ・平成23年度実績 2月～3月 のべ約50名利用 走行距離137km  
介護者のつどい、身体障がい者のつどい
- ・平成24年度実績 4月～2月 のべ約500名利用 走行距離1,338km  
集落のお出かけサロン、障害者のつどい、日帰り旅行、身体障害者福祉協会イベント、一人暮らし高齢者ふれあい会食会 ボランティアフェスティバル、福祉フォーラム、河崎さんち見学会、若者出会い応援交流事業 等  
幅広い年代に使われており、自宅の前まで送迎可能のため大変喜ばれている。  
そのため、一人暮らし高齢者の会食会への参加率が増えたり、お出かけサロンを計画する集落が増えている。

### 工夫した点

ふれあいサロンを運営している民生委員や福祉委員に声をかけ、気軽なお出かけに使用してもらえようPRした。  
バス停までいけないという高齢者や障がい者に対し、自宅前まで送迎可能と伝え、外出を促した。



ふれあい会食会の様子

### 事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で車両を購入。  
車両の維持費、保険、燃料代等は社協の財源を使用している。

### 課題

- ・高齢者等の買い物支援ができていない。
- ・貸し出し可としているが、車体が大きく、事故等が不安という声もあり、職員以外の運転ができない。

### 今後の目標

- ・高齢者等の買い物ニーズの聞き取りを行い、必要に応じて支援を行う。
- ・サロンでの使用や、「河崎さんち」への送迎など、地域での交流の場への移動支援を増やし、生きがいづくりや外出の支援をつくっていく。



### 団体からのメッセージ

多くの方にこの車両を活用していただき、交流や外出の機会を増やしていただきたいと思います。  
「こんな時に送迎してもらえたら」など、お気軽にお問い合わせください。  
外に出る喜び、ふれあう楽しさをもっと感じてください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 福祉車両購入による高齢者等日常生活活動支援事業 ( 美浜町 )

### 基礎情報

|      |               |
|------|---------------|
| 実施地域 | 美浜町全域         |
| 実施主体 | 美浜町           |
| 所在地  | 美浜町郷市第25号25番地 |
| 代表者  | 美浜町長 山口治太郎    |



### 平成23年度の事業概要

公共交通機関の整備が十分でなく、自力での移動手段の確保が困難になっている状況で、身体機能が低下している高齢者や障害者の地域活動への参加を支援したり、近くに援助者がいない受診困難者への通院介助を実施し、高齢者等の日常生活の支援を行う。

- ・ 福祉車両の購入
- ・ 福祉車両を活用した日常生活支援活動の展開

### 現在の活動状況

- ・ 閉じこもりがちな高齢者等をふれあいサロン、介護予防教室、敬老会等各種行事へ参加するための移動を支援し、交流の機会をつくっている。
- ・ 受診困難者への通院介助を行い、重症化を防止している。
- ・ ひとり暮らし等高齢者の定期訪問により状況確認を行い、福祉サービス、介護保険サービス等必要なサービスにつなげている。

### 事業の実績、成果

- ・ 閉じ困りがちな高齢者等を介護予防教室へ送迎することで、生活機能が向上したと、大変喜ばれた。
- ・ 移動手段を持たない高齢者のみの世帯の認知症高齢者を専門医療機関に受診させることができた。
- ・ 救急車を呼ぶほどではない緊急時（一人暮らし等のため受診困難、虐待の疑いのある高齢者等）に対応することができた。

### 工夫した点

支えあいのための車両であることをアピールするため、救急キットに貼り付けたマークを車体にも貼り付けた。



### 課題

支援する職員が少ないため、利用者のニーズに十分対応しているとは言いがたい。

特に、医療機関受診の場合は、待ち時間の多いことが課題。

### 事業の財源

平成23年度に購入した福祉車両は、地域支え合い体制づくり事業補助金を活用。  
車両の維持費は、一般財源で対応。

### 今後の目標

今後は、移動支援ボランティア育成し、一人でも多くの高齢者等の外出を支援していきたい。

### 団体からのメッセージ

外出が困難な一人暮らし高齢者等が増加しています。福祉車両を使用した移動支援を活用するために、移動支援の輪を広げていきましょう。  
気軽にお問合せください。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## 食支援サービス安心強化事業

( 高浜町 )

### 基礎情報

|      |              |
|------|--------------|
| 実施地域 | 高浜町全域        |
| 実施主体 | 高浜町社会福祉協議会   |
| 所在地  | 高浜町緑ヶ丘 1－1－1 |
| 代表者  | 会長 内谷 周一     |



### 平成23年度の事業概要

ボランティアと社協職員が弁当・惣菜をつくり、高齢者、障害者宅へ食支援と安否確認を兼ねて配達する「食支援サービス」に新たに中温冷凍車を導入し、季節を問わずに安全に食を届けられるよう配達環境の改善を図りました。

### 現在の活動状況

ここ一年で食支援サービスの利用者の状況は、弁当が1日平均27名から38名、惣菜のみは1日平均59名から61名とそれぞれ増加傾向にあります。

配達ボランティアは個人4名と2団体の登録があり、常時平均2～3名程度が活動し、ボランティアでできない部分を社協職員が対応しています。

高齢者や障害者本人、ケアマネジャーにも必要とされ、利用は増加傾向にあり、そのニーズに対応しています。

土日の利用についてはニーズがあれば対応も可能です。

### 事業の実績、成果

温度調整可能な専用車両を使うことで作り手も利用者也安心して利用できるようになりました。

安定した3便体制になり利用者へより早く安全に配達できることと時間に余裕ができることで、これまでよりも利用者にゆっくりかかわることができるようになりました。

- ・平成23年度実績... 実施回数 265 回、利用者 885 名（延べ）
- ・平成24年度実績... 実施回数 257 回、利用者 1,044 名（延べ）
- ・平成25年度実績... 実施回数 248 回、利用者 1,132 名（延べ）※平成26年2月末実績

### 工夫した点

高浜、和田、青郷、内浦の4地区を2便体制から3便体制に改善。  
配送ルートも、効率よく回れるように、地区のコース分けを調整しました。



### 事業の財源

平成23年度地域支えあい補助金を活用し、中温冷凍車を整備。  
材料分は利用者の利用料から支出。  
車両や光熱費などの経費は、社会福祉協議会の会費などの一般財源から支出。

### 課題

配達用車両3台のうち、温度管理できる専用の冷凍車は1台のみなので、残りについても整備していく必要があります。  
また、利用者が増加しているので、ボランティアと調理・配達員の確保が課題です。

### 今後の目標

定期的な土日サービスの実施、栄養管理を強化し、栄養食のメニューも対応できるよう検討していきたい。



### 団体からのメッセージ

高齢、障害者の安否確認を兼ねている事業であるため、できる限りかわりを大切にしていく。  
利用者から望まれる安全・安心にどこまで取り組めるかが大切であり、今後も追求して事業に取り組んでいきたい。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## ふれあいサロン活動による日常生活支援 ( おおい町 )

### 基礎情報

|      |                     |
|------|---------------------|
| 実施地域 | おおい町全域（サロン実施地区27か所） |
| 実施主体 | 社会福祉法人 おおい町社会福祉協議会  |
| 所在地  | おおい町本郷82-14         |
| 代表者  | 会長 荒木茂夫             |



### 平成23年度の事業概要

サロンへの移動やお出かけサロン（外出型サロン）用に車両を整備し、サロン参加者の送迎や、日常的に外出が困難な方への外出支援の足として活用。

本町全域で現在27か所のサロンが立ちあがり活動しており、運営については地域のサロンリーダーや福祉推進委員等が中心になり、社会福祉協議会と地域包括支援センターは補助的に関わっている。

近年、本町全域で高齢者の一人暮らしや夫婦だけ世帯が増えており、外出の機会や交流が減る傾向にあるため、社会参加を促した。

### 現在の活動状況

平成23年度に引き続きサロン会場への送迎や外出を兼ねたサロンのお出かけサロン等への積極的な参加を促し、継続的な外出支援を実施している。

サロン参加への移動手段が確保できたことにより屋間一人きりで会話もなく閉じこもりがちになっていた足の不自由な高齢者がサロンに参加され仲間づくりやレクリエーションを行う機会をつくっている。

また、多くのサロンでは健康体操や食事会、お茶会、カラオケ等室内メニューが主だったが、車両が整備されたことにより、公園散策やグラウンドゴルフ、花見等野外メニューも増え、活動範囲が広がった。

### 事業の実績、成果

日常的に外出困難な高齢者の外出への支援を行うことでサロン等への参加者が増加し、地域との交流（社会参加等）を促した。

これまでのサロンは、室内メニューに限定されがちでマンネリ化しやすい内容であったが、外出手段が確保され、晴れた日には近隣の公園散策等の野外行事が増えメニューの幅が広がり参加者も増加した。

### 工夫した点

サロン参加者募集のチラシに野外メニューを加えたり、送迎車の案内を加え、サロン参加を呼びかけた。



### 事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金にて車両を購入。  
購入車両の維持管理については町社会福祉協議会の自主財源。  
サロン事業運営については、町より事業委託を受けた社会福祉協議会より1サロンに対し年間1万円の活動助成金を交付し、サロン活動の継続実施を推進している。

### 課題

公共交通機関が使いにくく、外出手段の確保が困難な方で、サロン等に参加したい方がまだまだ潜在すると考えられるので、サービスの周知や関係機関との情報の共有を図る必要がある。  
参加者は女性が多いので男性をいかに参加させるかが大きな課題。

### 今後の目標

- ・サロンリーダー研修と新規開催地区対象の学習会を実施し、高齢者の生きがいづくりの一環として、ふれあいサロン実施地区と実施回数を増やすよう検討する。
- ・地域包括支援センターとの連携により、健康チェックや介護予防等のメニューを取り入れていく。
- ・サロンボランティアの募集や企画運営に関する相談援助を実施する。
- ・サロンでの交流を通して、隣の人の「顔の見える」関係から「互いを想う」地域づくりを進める。



### 参加者からのメッセージ

今日はサロンだと思えば元気が湧いてきます。  
行事に参加することで、身体に自信がつき、人を労わる気持ちが持てるようになりました。  
お出かけサロンもあるので春には近くの桜並木をみんなで見に行きたいです。

【3－1】日常生活支え合い実践事業

## みんなで助け合い「足の確保」

( 若狭町 )

### 基礎情報

|      |                      |
|------|----------------------|
| 実施地域 | 若狭町全域                |
| 実施主体 | 若狭町社会福祉協議会           |
| 所在地  | 若狭町井崎40－80 社協いずみ事業所内 |
| 代表者  | 若狭町社会福祉協議会 会長 塚本 新一  |



### 平成23年度の事業概要

若狭町では、福祉サービスによる外出支援(病院・介護施設行きで車イス・ストレッチャーの方のみ)、福祉・サロンバス、タクシー助成などで町内高齢者の移動手段の確保を行っているが、利用者に一定の制限が設けられており、住民からの要望・社協アンケートで、

- ・車イスのまま移動できる車の貸出し
- ・気軽に買い物・小浜病院などへ連れて行ってくれるボランティア
- ・地区でボランティア車両の整備(事故時の保険の問題)
- ・福祉バスの停留所まで足が悪く歩けない

など数多くのニーズがあり、高齢者の自由な移動手段の確保が必要であることが判明し、集落・地区・広域等での地域支え合いによる送迎に必要なボランティア体制の整備と福祉車両(貸出し用)の整備を行った。

### 現在の活動状況

平成23年度に、民生児童委員・福祉委員・老人家庭相談員・サロン世話人などで構成する「地区福祉懇談会」やその団体代表者からなる「地区支え合い検討会議」で、福祉車両貸出し事業について説明し、利用促進についてPRを行った。

また運転ボランティアの募集についても声掛けを依頼。

現在、2つの地区で買い物など運転ボランティアのついでに検討をして頂いており、明倫地区では「明倫買い物クラブ」を設立し、25年3月7日から運行を開始して頂いている。

また、家族・親戚が車イスでの移動しかできない高齢者などを外出に連れて行きたいと利用されている方も少しずつ多くなっている。

### 事業の実績、成果

「地区福祉懇談会」や「地区支え合い検討会議」で意見の出た地域の福祉に関する課題の中で、最も多かった「買い物難民」の問題が、ボランティア等による送迎車両貸出しによって少しずつ改善していきつつある。

普段「ちょっと乗せてあげたいが…」と思っている方が多いが、交通事故の問題(保険)や「お礼を言われるのが恥ずかしい」など乗せてあげられなかったのが実情だった模様。

しかしながら、働き盛りの壮年から、定年後の前期高齢期の男性に運転ボランティア希望の方が多いことがわかり、今後もこの年代の方が協力しやすい体制・内容を検討・拡大することで、様々な福祉課題に明るいきざしが見えるのではないかと期待している。

※ボランティアの家族も応援してくれているとのこと…

### 工夫した点

「地区支え合い検討会議」の中で、需要がどれだけあるのか把握できないため、運転ボランティアの取り組むことに二の足を踏んでいる地区が多くある。

すでに運航開始した明倫地区では、地区内の高齢者を対象に福祉関係者で、「もし運転ボランティアあれば利用したいか?」・「ボランティアとして参加したいか?」についてアンケート調査を実施。その結果相当数の利用希望者とボランティアの申し込みがあったため福祉関係者が協力し合って運行につながった。



### 事業の財源

H23地域支え合い体制づくり事業  
地域で支える送迎サービス(外出・移動支援  
福祉車両貸出し)事業

(県補助金) 3,400,000円

※町から社協への補助金として支出

H24以降は社協で予算対応

ボランティア保険や車両保険、修繕費など

※使用上の取り決めとしてガソリン満タン返し

### 課題

道路交通法の規定により、ボランティアだからといって簡単には支援を必要としている高齢者などを車に乗せることはできない。

また運転ボランティアとして運賃をとることもできないこともあり、地域で取組むことは大変難しい。

明倫地区の場合は会費制で運営しているが、ガソリン代などの支援も検討する必要がある。

「もう少し小さい車の方が…」との意見もある。

### 今後の目標

「明倫買い物クラブ」のようなボランティア団体が自然発生的に増えるよう「地区福祉懇談会」や「地区支え合い検討会議」で地区の課題として検討を続けてもらう。

また区長会など各方面へアピールすることによって、住民全員に理解と協力を求める。

利用団体や個人が増えれば台数を増やす予定。

### 団体からのメッセージ

「明倫買い物クラブ」の運行開始日に立ち会いましたが、利用者が集合時間の30分以上前から待って下っているのに驚きました。

また運転ボランティアの方も早くから車の掃除や点検をされており、みなさんの笑顔がとても印象的でした。また「ここぞ」とばかりに沢山買い物され車が狭くなり困るほどでした。

始まって間がないので、利用者が少ない場合など運営費の課題などがありますが、今後この活動が町中に広がることを願っています。